

き続き院外処方にご協力をお願いいたします。

市立病院の現状について

茅ヶ崎市立病院
院長 仙賀 裕

平成16年4月に全面開院してから、早いもので4年が過ぎました。今回は市立病院の現状について、いくつかお話しさせていただきたいと思います。

*院外処方について

本年4月より当院は外来の投薬について、全面的に院外処方に切り替えました。新たなご負担をおかけすることにもなりましたが、患者さん、市民の皆さんのご理解とご協力によりスムーズに移行することが出来ました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

これまで、院外処方箋発行率は0.5%程度でしたが、4月は89.4%となりました。この数字は時間外の救急外来や、どうしても院内処方ではなければ処方できない薬を除くと100%院外処方になったと言える数字です。

今後、急性期医療を担う病院として、薬剤師は入院中の患者さんへの病棟薬剤業務を全面的に行ってまいります。

病棟薬剤業務とは、入院患者さんを対象とする、調剤、服薬指導、医薬品管理、医薬品情報管理、薬歴管理などの業務の総称です。医薬品の適正使用、患者サービスの向上、チーム医療を更に充実させることができますので、引

*救急医療について

16年4月より、診療時間内の救急対応は、各診療科の科部長クラスの医師が交替で救急室に待機しています。初診を行う中で、専門診療科の診察を必要とする患者さんについては、直ちに該当する診療科の医師に引き継ぐことにより、搬送されてから初診までの待ち時間の短縮に努めています。

夜間、土日などの救急対応については、内科系、外科系、小児科、産婦人科の医師が各1名と研修医1名の5名が当直体制で診療を行っており、麻酔科医師はオンコール体制で24時間いつでも手術に対応できるようになっています。

また、救急対応のスタッフとして、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師が各1名、看護師は日勤帯と準夜帯が3名、深夜帯は2名が勤務しており看護師長も管理当直として1名当直しています。

当直等の職員は救急外来だけでなく、入院患者さんの急変にも対応していますので、救急外来に来院されても長くお待ちいただくことがありますことをご理解下さい。

*時間外救急の現状について

時間外に救急で来院される患者さんの数は、平成5年度は約1万5百人でしたが、平成10年度には1万5千人、平成15年度には2万人を超え、平成17

年度は2万4千人。平成18年度は2万3千人、平成19年度は21,385名でした。1日平均約60人の患者さんが診療時間以外（時間外）に来院していることとなります。

この時間外患者さんのうち約半数が小児科の患者さんです。平成5年度は小児科の外来受診患者さんの15%が時間外でしたが、平成12年度には20%、平成17年度以降は30%を超える患者さんが時間外に来院しており、小児科当直医師の勤務が厳しくなっています。

前述のように、当直医師は救急外来だけでなく、入院患者さんの急変にも対応しています。

また、重篤な患者さんが救急搬送された時は、救急応援の医師が病院に到着するまで救急診療を一時的にストップせざるを得ない状況もありますので、出来るだけ診療時間内の受診をお願いします。

*分娩制限について

当院の産婦人科は、常勤医師4名と大学から派遣される臨時医師の応援で24時間対応しています。

最近、産科医不足により茅ヶ崎市周辺でも分娩を取り扱う病院・医院が減ってきている中で、幸い当院では分娩を扱うことが出来ていますが、当院の診療体制(能力)から年間720件位が適当と考えています。

19年度は781件の分娩を取り扱いました。当院の産婦人科は、分娩以外に婦人科疾患も扱っており、手術等も行いますので、これ以上の分娩を扱うことは、安全安心な分娩を損なうおそれがあると判断し、昨年9月に分娩の予約制限のお話をさせていただきました。

今後も、産婦人科医師の確保に努力をしてまいります。現在の全国的な産婦人科医師不足の状況では困難なことをご理解いただきたいと思います。

*放射線治療について

昨年4月より、リニアック（放射線治療装置）による治療を開始し、癌治療の三本柱である、手術・化学療法・放射線治療の体制が整いました。平成19年度は100人以上の患者さんが放射線治療を受け良い結果となっています。

*予約診療の受付方法変更について

本年3月より、予約で来院される患者さんにも自動再来受付機で受付をしていただいておりますが、この方法により患者さんの来院時間が分かり、診療側でも待ち時間が把握できるようになりました。

今後、このデータを分析することにより、少しでも待ち時間の短縮に努めてまいりたいと考えています。

*医療用画像システムについて

本年3月より、医療用画像システムを導入しました。これは、放射線診断などの画像をデジタル化することで、いつでも、どこでも、診療端末（ディスプレイ）で画像を見ることが出来るようになりました。

重い放射線フィルムを持ち運ぶことや、保存したりする手間がなくなり、患者さんの待ち時間の短縮や、迅速な診断に効果があがっています。

最近の市立病院の状況について、いくつもお話をさせていただきましたが、これからも茅ヶ崎市立病院にご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。